

特別支援教育の在り方

－個別の指導計画の取組について－

田原本町立田原本幼稚園 主任 桜井直子

Sakurai Naoko

要 旨

特別な教育的支援を必要とする幼児を受け入れ、3年間保育していく中で、その幼児に対しての支援内容をとらえ、そのためにどのような手だてをしていくかを明確にする必要がある。そこで本園の個別の指導計画を作成するとともに、指導記録を見直し、具体的な支援内容や方法について研究した。

キーワード： 個別の指導計画、指導記録、目標、手だて、評価

1 はじめに

本園には、自閉症をはじめ様々な種別の障害児が在籍し、加配教員が担当している。主任の立場から本園の特別支援教育を見直したとき、3年間の幼稚園教育の中で継続した支援を行い、更に、就学後も継続して支援がなされるためには、個別の指導計画が必要であると考えた。これを活用することにより、幼児の実態や発達段階等を的確に把握し、一人一人の課題、手だて、評価等をより明確にすることができる。また、教員間だけでなく保護者とも共通理解でき、互いに連携して幼児を支援していくことができる。更に、この個別の指導計画を日々の保育に生かすために、個別の指導計画と指導記録の記入方法についても考察した。

2 研究目的

個別の指導計画を作成し、必要な教育的支援の在り方や記入方法を研究する。

3 研究方法

- (1) 個別の指導計画や指導記録、生活チェック表などの情報収集
(みきの会、奈良県立二階堂養護学校、奈良県立大淀養護学校、田原本町立田原本小学校)
- (2) 本園の個別の指導計画及び指導記録の様式を検討、作成、記入方法について考察
- (3) 個別の指導計画及び指導記録の実践と考察

4 研究内容

- (1) 個別の指導計画や指導記録、生活チェック表などの情報収集
ア みきの会（三木市障害児教育学習会）の勉強会に参加
報告された個別指導計画には、「生活面」「運動・身体面」「認識面」「社会性・コミュニケーション面」「その他・行動の特徴等」の指導項目があり、それぞれの項目に対して、実態、指導目標（◎長期目標、○短期目標）・具体的な手だて、今後の課題を記入する様式であった。

保護者とともに個別の指導計画を作成するため、前記の五つの指導項目についてアンケートを取り、家庭訪問で詳しく聞くようにしている。個別の指導計画を作成することによって、教員間だけでなく保護者とも共通理解ができ、年度末には、取組や成果について話し合う機会をもっている。次の担任へ引き継ぐための資料にもなり、「このような手だてをしたので、できるようになった」という記録が、今後の指導の参考にもなっている。

イ 奈良県立二階堂養護学校「教材市場にかいどう」（教材展示、実演、体験）に参加

＜小学部個別の指導計画＞については、「生活面」において、排泄、食事、着脱、健康、その他の記入内容がある。「運動・身体面」では、全身運動、手指の操作、調整力、持久力、協応動作、その他、「社会性」では、情緒、対人関係、集団参加、コミュニケーション、興味・関心、遊び、その他の内容になっている。

ウ 奈良県立大淀養護学校「第2回実践ヒント交流会」に参加

＜小学部個別の指導計画＞については、「年間重点目標」と「保護者の願い」「諸検査等」「関わりの方針」の欄がある。次に「生活面」「運動・身体面」「学習面」「社会性・コミュニケーション」の4項目及び記入内容があり、それぞれの項目に対して実態（年度当初）、課題を記入し、1学期から3学期の「指導方法・内容」「指導場面」「指導経過・結果」を記入できる様式である。指導項目ごとに1学期から3学期が縦に配置され、経過が分かる様式になっているので、次の学期に引き続いて同じ指導を行う場合には、指導の継続が図りやすい。

興味深いものに「生活チェック表」があった。具体的な課題に対して1週間ごとに手だてと様子、達成度（△芽生え○ほぼできる◎確実にできる）を記入することができる表である。指導する上での課題が明確に意識でき、教員間の共通理解や支援の引継に役立っている。本園の指導記録の様式や記入方法を見直すための資料になるのではないかと考える。

エ 田原本小学校障害児学級担任との話合い

障害児学級担任との話合いにおいて、以下のようなことが明らかになった。

保護者のニーズを聞くために「生活面」「学習面」「行動面」に対して、指導を希望する優先順位に従って記入する用紙を配布し、目標設定をするときの参考にしている。個別の指導計画では、指導領域として大きく「基本的生活」と「教科」に分かれ、更に前者には「生活面」「行動面」、後者には「国語」「算数」等の9教科の項目がある。それぞれの長期目標に続いて学期ごとの短期目標があり、評価（×△○）を記入するが、どの程度できたら△なのか、○なのかを教員間で共通理解している。なお、誰がどのような手だてを行うのかという欄を設定することが今後の課題とされている。

個別の指導計画に基づいての手だてや評価は、小学校でも接続して生かすことができるものではないかと考える。

(2) 本園の個別の指導計画、指導記録の様式検討、作成、記入方法についての考察

ア 本園の現状と課題

平成6年度から障害児担当教員が加配された。入園に際して保健センター（発達指導員）との連絡会を行い、保護者了解の下、必要な支援についての情報交換をしている。入園後も保健センターによって現地観察や発達検査が行われ、支援方法について指導を受けることができる。加配教員は指導記録を作成するが、従来の様式は生活の流れに沿って幼児の行動を記入するようなもので、記録の視点が定まらず、指導の目標や支援方法、成長の過程等がとらえにくい。そのため、教員間で共通理解したり、加配教員や担任が代わった場合の引継に生かしたりすることが難しい。

園児の大半が田原本小学校に入学し、年長時の2、3学期と入学後の1学期に保幼小連絡会が行われる。しかし支援を必要とする幼児について、限られた時間内に園での様子や取組について十分伝えることができない状況にある。

これらのことから、加配教員が明確に幼児の課題や手だて、発達の過程等をとらえて計画的に指導し、その取組を教員間で共通理解できる資料が必要であると感じる。この資料があれば、連絡会でも具体的な情報交換ができ、入学後も同じ支援が継続できるのではないかと考える。

イ 個別の指導計画の作成と記入方法

1学期から、加配教員が担当する年長児の個別の指導計画を作成する。様式については、様々の資料を基に、「入園前の様子」として「障害の状況・既往症・発達検査の記録」の欄をつくる。障害の状況については、診断名、診断者名も明記する。指導項目を「生活面」「運動・身体面」「作業面」「認知・言語面」「社会性・コミュニケーション面」「その他・行動の特徴」の6項目にする。それぞれの項目について、どのような内容を記入するかを学年教員で検討し、年度当初の実態を記入する。下段に「保護者の願い・家庭の様子」の欄をつくる（表1）。

次に年度当初の実態から、幼児にどのような力を付けたいのかを把握し、1年間の「長期目標」と1学期の「短期目標」を設定する。学期ごとに1枚の用紙にし、「長期目標」と「短期目標」を照らし合わせることができる様式にする。「短期目標」に対する「具体的な手だて」を考え、学期末には、「1学期の様子・評価」及び2学期の「短期目標」を設定する。3学期は、「3学期の様子・今後の課題」とする（表2）。

個別の指導計画を記入するに当たり、次のような点に留意した。

- 6項目すべてに「長期目標」を記入する必要はなく、その幼児に必要な指導項目のみにし、「短期目標」は重点目標（●）を決め、優先順に記入する。
- 「短期目標」はスモールステップで、少し頑張ればできる内容に限定する。
- 「短期目標」に対してどのような「具体的な手だて」をするのか、できる限り具体的に記入する。
- 「1学期の様子・評価」については、目標や指導方法の見直しや次への目標設定につながるものであることを意識して記入する。
- 保護者の願いやニーズを聞き取り、指導目標に反映させる。取組について共通理解し、指導の結果について説明する。

上記のように指導計画を作成することにより、幼児は目標を達成できたことで自信をもち、次への意欲が高まる。また、保護者にとってもその成長が大きな喜びとなる。たくさんの目標をつくると、幼児にも教員自身にも負担になりかねない。また、短期目標の「具体的な手だて」として見守る、励ます、言葉をかける、やってみせる、手を添えるなどが考えられる。更に、幼児の興味や関心に合わせて、必要な教材や教具の準備や工夫が必要である。

今年度初めて個別の指導計画を実施するに当たり、2学期の「短期目標」を考える上で、7月下旬、保護者に個別の指導計画について説明し、「お子さんにできるようになってほしいと希望することをお書きください」と「生活面」「行動面」「その他」の3項目について記入する用紙を配布した。今までも必要に応じて保護者とは情報交換をすることがあったが、保護者の気持ちや就学に向けての思い、不安等を確認し整理するよい機会になった。得た情報を「保護者の願い」の欄に記入し、「1学期の様子・評価」と重ね合わせ、2学期の「短期目標」に反映させた。

表1 個別の指導計画（実態）

平成17年度		個別の指導計画		＜実態＞	
クラス ふりがな 幼児名	3年保育	年長	組	担任	
生年月日	平成	年	月 日	男・女 (歳)	加配

表2 個別の指導計画（1学期）																																																		
<p>入園前の様子</p> <p>障害の状況 既往症等 発達検査の記録</p> <p>施設等</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">個別の指導計画</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">＜1学期＞</th> </tr> <tr> <th style="width: 5%;">項目</th> <th style="width: 25%;">長期目標</th> <th style="width: 25%;">短期目標</th> <th style="width: 45%;">具体的な手だて</th> <th style="width: 20%;">1学期の様子・評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生活面</td> <td>○生活に必要な習慣や態度を身に付け、自分で進んで行う。</td> <td>●登園時、持ち物をロッカーに整理して片付ける。 ○箸や食器を正しく持ち、使う。</td> <td>○必要に応じて、その都度、言葉をかける。 ○教員が正しい持ち方を見せる。</td> <td>○一人でできるが、周囲の様子が気になり雑になる。その都度声をかけるが、感情的になり、冷静に受け入れられない。今後も継続が必要である。 ○箸や食器の正しい持ち方は身に付いていない。</td> </tr> <tr> <td>運動・身体面</td> <td>○体を十分に動かし、苦手なことにも挑戦しようとする。</td> <td>○歌やリズムに合わせて楽しんで体を動かす。</td> <td>○教員も一緒に動いて誘いかけたり、言葉をかけたりする。</td> <td>○苦手な活動も一度できると何度も繰り返して続けるようになる。興味のないリズム遊びはその場で立ったままでしょうとしなかったが教員に誘われ、元気に体を動かすようになる。</td> </tr> <tr> <td>作業面</td> <td>○いろいろな用具を使い落着いて製作に取り組む。 ○結んだりほどいたりする。</td> <td>●はさみで直線をなぞって切る。 ○のりを端まで塗る。 ○弁当包みを結んだりほどいたりする。</td> <td>○線を太く描く。 ○のりの塗り残し箇所を知らせる。 ○必ず確認し、できたときはほめる。</td> <td>○細かい作業になるとあきらめ、怒り出す。早く仕上げたいという気持ちが先走り線通りに切ることができない。 ○一人で結べるが、ほどこうとして逆にかた結びになってしまうことがある。</td> </tr> <tr> <td>認知・言語面</td> <td>○教員や友達の話話を落着いて最後まで聞く。</td> <td>●椅子に座り、最後まで話を聞く。</td> <td>○立ち上がろうとしたときに、座るように肩を押さえたり、声をかけたりする。</td> <td>○話の途中でも、自分の思いを教員に聞いてもらおうと話し出す。友達に対しても自分の思いを主張するので教員が仲立ちとなる必要がある。</td> </tr> <tr> <td>社会性 コミュニケーション面</td> <td>○生活に必要な言葉を使ったり順番を守ったりする。</td> <td>●物を借りるときは「かして」と言う。 ○順番に並び、順番がくるまで待つ。</td> <td>○黙って借りたときは「なんて言うの」と問いかける。 ○後から来たとき、列の一番後ろに並びように声をかける。</td> <td>○6月頃から友達とのかかわりが増え、ひとつの遊びを楽しむようになる。それに伴いトラブルが多くなる。必要な言葉は分かっているが使うことができない。</td> </tr> <tr> <td>その他 行動の特徴</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○青色に対するこだわりがあるが、他の色でも「仕方がない」と我慢できる。</td> </tr> <tr> <td>保護者の願い</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>家庭の様子</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○兄弟でよく遊び、母親とは工作をして遊ぶ。 ○帰宅後は近所の友達と遊ぶことが多い。 ○箸の持ち方や弁当の包み方の練習に取り組む。</td> </tr> </tbody> </table>	個別の指導計画		＜1学期＞		項目	長期目標	短期目標	具体的な手だて	1学期の様子・評価	生活面	○生活に必要な習慣や態度を身に付け、自分で進んで行う。	●登園時、持ち物をロッカーに整理して片付ける。 ○箸や食器を正しく持ち、使う。	○必要に応じて、その都度、言葉をかける。 ○教員が正しい持ち方を見せる。	○一人でできるが、周囲の様子が気になり雑になる。その都度声をかけるが、感情的になり、冷静に受け入れられない。今後も継続が必要である。 ○箸や食器の正しい持ち方は身に付いていない。	運動・身体面	○体を十分に動かし、苦手なことにも挑戦しようとする。	○歌やリズムに合わせて楽しんで体を動かす。	○教員も一緒に動いて誘いかけたり、言葉をかけたりする。	○苦手な活動も一度できると何度も繰り返して続けるようになる。興味のないリズム遊びはその場で立ったままでしょうとしなかったが教員に誘われ、元気に体を動かすようになる。	作業面	○いろいろな用具を使い落着いて製作に取り組む。 ○結んだりほどいたりする。	●はさみで直線をなぞって切る。 ○のりを端まで塗る。 ○弁当包みを結んだりほどいたりする。	○線を太く描く。 ○のりの塗り残し箇所を知らせる。 ○必ず確認し、できたときはほめる。	○細かい作業になるとあきらめ、怒り出す。早く仕上げたいという気持ちが先走り線通りに切ることができない。 ○一人で結べるが、ほどこうとして逆にかた結びになってしまうことがある。	認知・言語面	○教員や友達の話話を落着いて最後まで聞く。	●椅子に座り、最後まで話を聞く。	○立ち上がろうとしたときに、座るように肩を押さえたり、声をかけたりする。	○話の途中でも、自分の思いを教員に聞いてもらおうと話し出す。友達に対しても自分の思いを主張するので教員が仲立ちとなる必要がある。	社会性 コミュニケーション面	○生活に必要な言葉を使ったり順番を守ったりする。	●物を借りるときは「かして」と言う。 ○順番に並び、順番がくるまで待つ。	○黙って借りたときは「なんて言うの」と問いかける。 ○後から来たとき、列の一番後ろに並びように声をかける。	○6月頃から友達とのかかわりが増え、ひとつの遊びを楽しむようになる。それに伴いトラブルが多くなる。必要な言葉は分かっているが使うことができない。	その他 行動の特徴				○青色に対するこだわりがあるが、他の色でも「仕方がない」と我慢できる。	保護者の願い					家庭の様子				○兄弟でよく遊び、母親とは工作をして遊ぶ。 ○帰宅後は近所の友達と遊ぶことが多い。 ○箸の持ち方や弁当の包み方の練習に取り組む。
個別の指導計画		＜1学期＞																																																
項目	長期目標	短期目標	具体的な手だて	1学期の様子・評価																																														
生活面	○生活に必要な習慣や態度を身に付け、自分で進んで行う。	●登園時、持ち物をロッカーに整理して片付ける。 ○箸や食器を正しく持ち、使う。	○必要に応じて、その都度、言葉をかける。 ○教員が正しい持ち方を見せる。	○一人でできるが、周囲の様子が気になり雑になる。その都度声をかけるが、感情的になり、冷静に受け入れられない。今後も継続が必要である。 ○箸や食器の正しい持ち方は身に付いていない。																																														
運動・身体面	○体を十分に動かし、苦手なことにも挑戦しようとする。	○歌やリズムに合わせて楽しんで体を動かす。	○教員も一緒に動いて誘いかけたり、言葉をかけたりする。	○苦手な活動も一度できると何度も繰り返して続けるようになる。興味のないリズム遊びはその場で立ったままでしょうとしなかったが教員に誘われ、元気に体を動かすようになる。																																														
作業面	○いろいろな用具を使い落着いて製作に取り組む。 ○結んだりほどいたりする。	●はさみで直線をなぞって切る。 ○のりを端まで塗る。 ○弁当包みを結んだりほどいたりする。	○線を太く描く。 ○のりの塗り残し箇所を知らせる。 ○必ず確認し、できたときはほめる。	○細かい作業になるとあきらめ、怒り出す。早く仕上げたいという気持ちが先走り線通りに切ることができない。 ○一人で結べるが、ほどこうとして逆にかた結びになってしまうことがある。																																														
認知・言語面	○教員や友達の話話を落着いて最後まで聞く。	●椅子に座り、最後まで話を聞く。	○立ち上がろうとしたときに、座るように肩を押さえたり、声をかけたりする。	○話の途中でも、自分の思いを教員に聞いてもらおうと話し出す。友達に対しても自分の思いを主張するので教員が仲立ちとなる必要がある。																																														
社会性 コミュニケーション面	○生活に必要な言葉を使ったり順番を守ったりする。	●物を借りるときは「かして」と言う。 ○順番に並び、順番がくるまで待つ。	○黙って借りたときは「なんて言うの」と問いかける。 ○後から来たとき、列の一番後ろに並びように声をかける。	○6月頃から友達とのかかわりが増え、ひとつの遊びを楽しむようになる。それに伴いトラブルが多くなる。必要な言葉は分かっているが使うことができない。																																														
その他 行動の特徴				○青色に対するこだわりがあるが、他の色でも「仕方がない」と我慢できる。																																														
保護者の願い																																																		
家庭の様子				○兄弟でよく遊び、母親とは工作をして遊ぶ。 ○帰宅後は近所の友達と遊ぶことが多い。 ○箸の持ち方や弁当の包み方の練習に取り組む。																																														

夏期休業中に加配教員、担任、保護者の三者で話し合う機会をもち、「短期目標」と園や家庭での取組について共通理解をする。保護者が、園での具体的な「目標」や「手だて」を知ることができるなど、家庭と連携する必要性を感じた。

ウ 指導記録の様式の見直し

実際に個別の指導計画の短期目標や手だてを考える中で、日々の保育の中でどのように実践し、その評価を指導計画にどう反映していくかが課題となってきた。今までの指導記録は、一日の幼児の行動を毎日記録するものだったので、ポイントを絞って記録できる様式を試みた。それは、指導記録の項目を個別の指導計画の項目と同じものにし、「短期目標」を達成するための「課題」を記入する。「生活チェック表」を参考に、課題に対して1週間ごとの「幼児の姿」と「評価」（×できない△芽生え○ほぼできる◎できる）を記入し、用紙1枚で4週間の幼児の達成度がとらえられるというものである（表3）。

(3) 指導計画に沿った実践事例

「作業面」において、ひもを結ぶなど、細かい手作業は一人ではできず、時間がかかるという年長A児の実態から、1年間の「長期目標」を「結んだりほどいたりする」、1学期の「短期目標」を「弁当包みを結んだりほどいたりする」と設定した。昼食時に教員が確認し、できたときはほめるようにした。家庭でも同様に取り組んでいただき、1学期末、「一人で結べるが、ほどこうとして逆にかた結びになってしまうことがある」という「1学期の様子・評価」につながった。

このことを受けて、運動会ではひもを着用し腰ひもをちょう結びにする必要があるので、2学期は、「ちょう結びをする」ことを「短期目標」に設定する。「具体的な手だて」として、A児の好む青と白の2色のひもを台紙に通したものを準備し（図1）、励みとなるように「がんばり表」にキラキラシールを貼るようにした（図2）。この取組を保護者に伝え、週末には「がんばり表」と休日分のシールを持ち帰らせ、家庭でも継続して取り組むことができた。

表3 指導記録

< 評価 ×できない △芽生え ○ほぼできる ◎できる >

期 間		10/4 (火) ~10/7 (金)		10/11 (火) ~10/14 (金)	
項 目	課 題	幼 児 の 姿	評 価	幼 児 の 姿	評 価
運 動 ・ 身 体 面	<ul style="list-style-type: none"> ・ バランスをとって片足で立つ。(組立て体操のポーズ) ・ リレーではトラックを走る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 片足で長く立てるようになり、友達や教員に見せる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早くゴールしたくて、コースの内側を走り、友達を抜かしたことを喜ぶ。本児と一緒に走り、声をかけながらコースを知らせたので、コースを外れずに走れるようになる。 	○
作 業 面	<ul style="list-style-type: none"> ・ はさみで曲線をなぞって切る。 ・ ちょう結びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> (・ はさみを使う活動がなかった。) ・ 上手に結べないことにいら立ちがあった。何日か続けることで自ら「ちょうちょ結びしよう」と言うようになった。「できない」とつぶやくが、教員と一緒に頑張る。 	<p style="text-align: center;">—</p> <p style="text-align: center;">×</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ はさみはゆっくりと切るように言葉をかけるときれいに切れるが、一人でさせると急いで切るので、雑になる。 ・ 言葉をかけるだけでちょう結びができるようになる。がんばり表にシールを貼りたくて毎日練習をする。 	<p style="text-align: center;">△</p> <p style="text-align: center;">○</p>



図1 ちょう結び練習用具



図2 がんばり表

5 研究結果と考察

個別の指導計画を作成し指導することは、教育的支援を必要とする幼児を保育する上で、欠くことのできないものであるといえる。指導計画を作成するに当たって、幼児の実態を指導項目などのいろいろな面からとらえることができ、見落としがちな部分にも目を向けることができた。現在の発達段階やできない事柄から、今、付けたい力ほどのような力なのかをとらえ、それを目標とし、達成するために幼児一人一人に合った支援方法や教材を探っていかなければならない。そのことが指導を進める上で、とても重要である。

今年度、初めての取組にもかかわらず、確実に幼児が成長を遂げることができた要因には、教員の共通理解だけでなく保護者との連携や協力が挙げられる。今後も教員と保護者の連携を密にし、互いに同じ思いで幼児にかかわっていきたいと考える。

また、個別の指導計画作成に合わせて指導記録の様式を変えたことで、目標を意識して支援し、ポイントを押さえて具体的な手だてを記録することができた。また、「評価」の記入により成長の経過をたどったり、以前の姿を振り返ったりすることが可能となった。

6 今後の課題

今年度初めての取組として「個別の指導計画」を作成したが、一人一人に応じた必要な支援について加配教員、担任と保護者が同じ思いで保育や子育てを進めることができた。しかし、様々な障害に対する専門的な知識や障害児とかわる経験が教員に少ないのが現状である。そのため、指導計画が一人一人の実態や発達段階に合った目標設定であったのか、手だての方法は適切であったのか判断しきれない。「特別な教育的支援を必要としている子どもたち」の理解・啓発ガイドブックや様々な専門書が出ているが、一人一人に応じた支援方法は手探り状態であった。今後、「個別の指導計画」を作成する上で、関係諸機関の協力や指導を得ながら、保護者、園、保健センターとの連携が図れるよう働きかけていきたいと考える。

また、今年度は個別の指導計画の対象が年長児であったが、入園から卒園までの3年間継続して取り組み、次の学年への引継にどう生かされたか、再検討が必要な点はどこか等を見極めるとともに、小学校への接続にも役立つものとなるよう取組を進めていきたい。

参考・引用文献

- | | | | |
|---------------------|--------------|--------|------|
| (1) 個別の教育支援計画の作成と実践 | 香川邦生 | 教育出版 | 2005 |
| (2) 新しい教育課程と学習活動Q&A | 全国知的障害養護学校長会 | 東洋館出版社 | 1999 |